

キャリア教育における「京の子ども 明日へのとびら」の活用実践事例
小学校・低学年編 第2部 6
「おもちゃまつり」

道徳指導案

1 学年 第2学年

2 低学年のキャリア発達課題

- (1) 小学校生活に適應する。
- (2) 身の回りの事象への関心を高める。
- (3) 自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動する。

3 低学年におけるキャリア発達にかかわる諸能力

- (1) 意思決定能力
 - 【選択能力】・自分の好きなもの、大切なものをもつ。
・学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる。
 - 【課題解決能力】・自分のことは自分で行おうとする。
- (2) 人間関係形成能力
 - 【自他の理解能力】・自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。
・友達と仲良く遊び、助け合う。
・お世話になった人などに感謝し親切にする。
 - 【コミュニケーション能力】
 - ・あいさつや返事をする。
 - ・「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。
 - ・自分の考えをみんなの前で話す。
- (3) 将来設計能力
 - 【役割把握・認識能力】
 - ・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。
 - 【計画実行能力】
 - ・作業の準備や片付けをする。
 - ・決められた時間やきまりを守ろうとする。
- (4) 情報活用能力
 - 【情報収集・探索能力】
 - ・身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。
 - 【職業理解能力】
 - ・係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。

参考『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について』(国立教育政策研究所・生徒指導研究センター)

4 関連する教育活動 生活科「出発なかよし探検隊」「すてきな自分を知ってほしい」

5 関連する道徳の価値 2-(2)、4-(2)

6 本時のねらい

- ・友達と仲良く遊び、助け合う。(人間関係形成能力)【自他の理解能力】
- ・自分の考えをみんなの前で話す。(人間関係形成能力)【コミュニケーション能力】

道徳の時間としてのねらい

- ・幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にしようとする道徳的实践意欲と態度を強くする。2-(2)

7 授業改善の視点

(1) 体験活動との関連

児童に具体的なイメージを持たせるために、具体的な体験活動との関連を意識させながら学習活動を展開する。

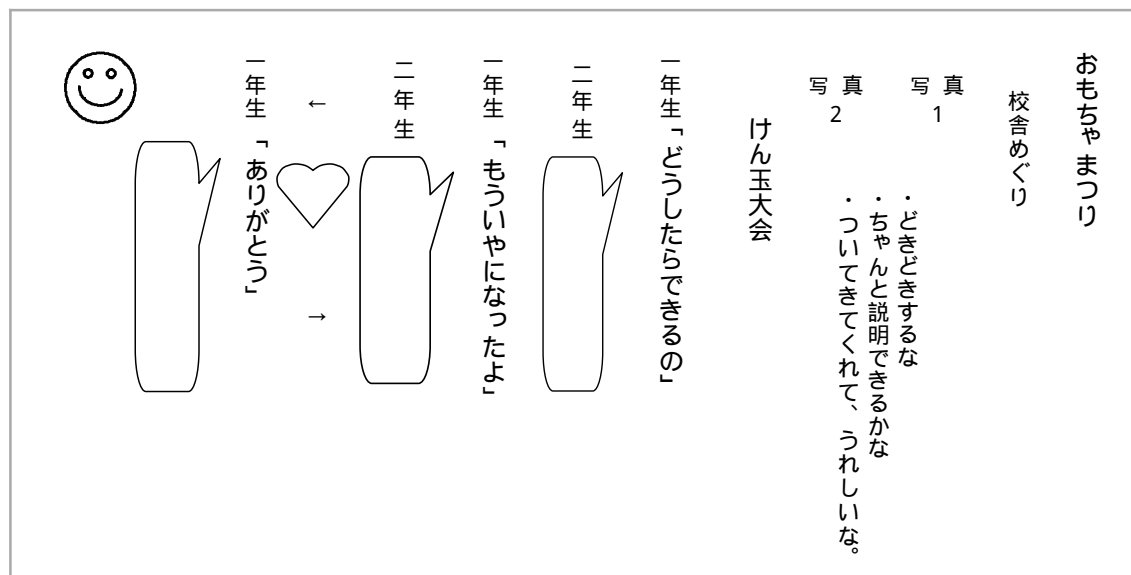
(2) 言語活動の充実

中心場面で役割演技を入れることによって、自分の考えをよりの確に表現させるとともに、相互の学びが深まるように工夫する。

8 本時の展開

過程	学 習 活 動	主 な 発 問 予想される児童の反応	指導上の留意点	資料・評価等
導 入	1 「校舎めぐり」を思い起こす。	○ 1年生に校舎を案内してあげた時のことを思い出しましょう。どんな気持ちでしたか。 ・ちゃんと説明できるか、ドキドキした。 ・まちがわないように気をつけた。 ・1年生がついてきてくれてうれしかった。	・写真を見ながら、どんな気持ちで案内していたか、1年生の様子はどうだったかについて振り返らせる。	・思い出ボックス ・「校舎めぐり」の写真
展 開	2 資料を読んで話し合う。	○ 資料「おもちゃまつり」を読む。 ○ 1年生と初めてあったときに、ドキドキしたのはどうしてでしょう。 ・はずかしいな。 ・うまく教えられるかな。 ・なんて言えばいいのかな。 ○ 1年生から、ありがとうと言われたとき、どんな気持ちだったでしょう。 ・よろこんでもらえてよかった。 ・やったかいがあった。	・自分たちと似ているところはないか、考えながら聞くように促す。 ・ドキドキしたときの気持ちが考えられるように促す。 ・「ありがとう」と言われたときのうれしい気持ちや、やりきった喜びに気付かせる。	
	3 けん玉大会の様子を思い浮かべて役割演技をする。	けん玉を教えてあげるとき、どんなふうに教えてあげたらいいでしょう。もし、次のようなことがあったらあなたはどうしますか。 役割演技 1年生「どうやったら、うまくできるの？」 ・もう少しひざをまげてごらん。 1年生「なかなかできないので、もういやになってきたよ。」 ・練習すれば、きっとできるよ。 1年生「ありがとう。」	・教師（T1・T2）が役割演技の模範を見せる。 ・自分ならどうするかを考えてワークシートに記入させる。 ・数名に役割演技をさせ、2年生として1年生にどのような言葉をかけるのがよいかを考えさせる。 ・役割演技をした児童にどんな気持ちでことばをかけたか、ことばをかけられてどんな気持ちができるかを発表させる。 ・「ありがとう」と言ってもらったときの気持ちを共感させる。	・けん玉 ・フラッシュカード ・ワークシート ・1年生、2年生の役割名札 ・フラッシュカード 自分の考えをみんなの前で話している。
	4 おうえんメッセージを読む。	○ おうえんメッセージを読みましよう。	・この言葉で温かい気持ちが通じ合うことに気付かせる。	・フラッシュカード
終 末	5 おさそいカードを書く。	○ 1年生へ『けん玉大会』のおさそいカードを書きましょう。（書けたらほかほかボックスに入れる）	・1年生が「けん玉大会」が楽しみになるようなカードになるように促す。	・カード ・ほかほかボックス

9 板書計画



10 児童の反応等

【授業者の思い(ねらい)】

2年生は、1年間の学校生活を体験し、学校生活にも徐々に慣れ、お兄さん、お姉さんとしての意識が芽生える学年である。また、人に頼らずに自分でできることが増え、やりきることによって自信が生まれたり、人との関わりの中で相手の立場に立つことを学んだりする時期でもある。そんな2年生の児童は、自分よりも小さくて学校にまだ慣れていない1年生に「何かしてあげたい。」という気持ちが自然に持てる学年であるとも言えるだろう。しかし、児童によっては、自分よりも幼い子にどのように接していいのかわからなかったり、思いはあっても行動が伴わなかったりすることもある。

そこで、生活科などの教科の中で、1年生との関わりを設定することは、大変意義のある活動になると思われる。この活動の中で、どのように接していけば1年生が喜ぶのかを自然に考えたり、活動のあとに1年生からお礼の言葉を聞いたりすることで、人の役に立つ喜びや自尊感情も生まれてくるのではないだろうか。

ここでは、まず1学期に行った「校舎めぐり」の体験をもとに、そのときに感じた気持ちを思い起こさせたい。自分が1年生にかけた言葉や行動が、相手を思いやる気持ちにつながっていたことに気がつく児童もいるだろう。また資料を通して、最初はどきどきしたけれど、やりきったあとに感じたすがすがしさや、お礼を言われたときの喜びから、人のために役立つことの意義を感じ取らせたい。そして、3学期に予定されている1年生にけん玉を教える機会を想定し、役割演技をすることで、温かい心で接することについて、さらに思いを深めさせていきたいと考える。

【授業改善の具体的な場面】

(1) 体験活動との関連



導入で体験活動との関連を意識させる

(2) 言語活動の充実



中心場面での役割演技